

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300107		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)		
所在地	大阪府堺市西区鳳中町7丁240番		
自己評価作成日	平成25年7月18日	評価結果市町村受理日	平成25年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2796300107-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームの理念である みんな みんな み～んなの笑顔と元気 ①同じ失敗は2度繰り返さない事 ②この仕事が好きな事 をモットーに日々頑張っております</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅に囲まれた中にホームが立地し、神社や商店街も近く環境に恵まれた当該ホームでは、「みんな みんな み～んなの笑顔と元気」を理念とし、利用者や家族、地域、職員全てが笑顔で過ごせるよう管理者と職員が一丸となって利用者が笑って暮らせる支援を実践しています。地域から独居の高齢者の相談が寄せられたり、ホームに車椅子を気軽に借りに来られるなど、地域から頼りにされホームの存在が浸透して来ています。玄関や各ユニットの出入り口等はずも開放し、利用者が行きたい時に自由に外出したり、利用者と同じ物に行く事が日常的になっており、外出することを大切にしています。利用者同士が生き生きとした表情で笑い合い、台所やリビングで活躍する姿が見られ、利用者がのびのびと自らの生活を楽しめるよう支援しているホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念とみんなの笑顔を掲げお客様が安心して暮らせるホーム作りを行っている	独自の理念「みんな みんな み～んなの笑顔と元気」を玄関に掲げ、職員は玄関に入ったら元気な笑顔で利用者に挨拶をすることから始め、理念を意識したケアが日々行なわれているかミーティングで振り返り、利用者の笑顔絶えず確認し、家族や地域の方々も笑顔で元気に過ごせるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎月いきいきサロン(町内老人会)に参加	町内会に加入していませんが付き合いを大切に、民生委員や老人会から地域の情報を得ています。買い物に出かけた際や公園を散歩中に挨拶を交わし合っています。地域から草刈りのボランティアに來られたり、老人会に参加し地域の祭りにはホームが相談窓口となる等、日頃から地域との関わりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ相談等に対して関係機関と連携をとり適切な対応を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の現状、活動状況を報告し意見を頂きサービス向上に努めている	会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者、家族等の参加を得て年6回開催しています。ホーム内外の活動報告を行い意見交換が行われ、民生委員の提案や助言で畑のボランティアに來られたり、ホームの駐車場が地域の方の一時避難場所になる等、出された意見を運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	他事業所、グループホームとの交流会に参加し意見交換を行い協力関係を築けるよう取り組んでいる	困難事例や相談ごとがあれば市の担当者と相談したり、報告を行い事業所の理解につながるよう努めています。市からの研修案内がFAXや電話で届き、運営推進会議の議事録はFAXで報告をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関戸も開放しご家族が気兼ねなく来訪して頂ける様、心掛け身体拘束においては、全職員身体拘束廃止するケアについて話し合い取り組みを行っている	身体拘束について会社の研修に参加し、カンファレンスで具体的な事例を用いて話し合い職員間で周知しています。また、言葉による行動の制止についても話し合っています。玄関や各ユニットも全開放し出入りが自由となっていますが、外に出たい時は利用者から事務所に相談に來られ、一緒に付き添って外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ホーム内で委員会を設定し勉強会で虐待防止対策に努めている		

ニチイケアセンターおとし(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加しホーム内でも勉強会を開き相談時支援出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後にはお客様・ご家族様の要望を聞き十分な説明を行い納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談を気軽に相談できる環境作りに努めている	家族の面会も多く、来られた時は話しやすい雰囲気作りに努めています。買い物希望や意見などには介護計画に反映させ解決を図るとともに、他の利用者への反映を検討するなど、出された意見はサービスの向上に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行い意見交換を行っている	管理者は気軽に意見が出しやすいように日常的に職員の意見を聞いています。個人面談を年2回行って意見や提案を聞く機会にしています。また、全体会議で、委員会活動を通して出された職員の意見や提案を皆で検討し、日々のケアや運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各々の役割を持ち委員を担当する事で勉強会等で発表する場を作り向上心を持つよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外問わず研修等に参加出来る様に勤務の調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームを訪問しお互いに交流する機会を持ち参考にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に面談し話を聞き日々の業務中で関わりながら本人の思いを受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談は十分に行い、ご家族様に不安が残らないように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し出来るだけ早急に対処し適切な対応を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の自発的な行動を誘う環境を考え介護を受ける感覚を持たないよう出来る動作は見守っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を常時報告し情報の共有に努めている。面会時にも相談する事で関係作りを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間など特に規制はなくいつでも気軽に立ち寄れるよう配慮している。外出も規制なく場との関係が途切れないよう努めている	友人や知人、親戚の方の来訪時には、居室に椅子を用意したりお茶を出すなど、居心地良く過ごし関係が継続出来る様に配慮しています。近所に買い物に行った時に会った方と声を掛け合ったり、家族と法事に出かける時はスムーズに行けるよう準備を手伝い、これまでの馴染みの人や場の関係が継続できる支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士でトラブルのないよう席の配慮を考えたり皆で出来る事を日々考え支援している		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後とも家族からの連絡にて相談等受付出来る限りの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな事やしてみたい事を普段の会話によりきき取れるよう努め同時に家族からも情報を得ている	利用者や家族から聞いた思いや意向、生活歴、趣味等をアセスメントシートに記入し職員間で情報を共有しています。入居後の関わりの中で聞いたり、会話や表情から思いを推測し、気付きや細かな観察を心がけ職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションにより把握に努めている。又、家族の面会時に情報を得て把握が出来る様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、管理日誌によりスタッフ全員が現状の把握が出来る様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内のカンファレンスを行い家族の希望等を聞き統一したケアが出来るよう心掛けている	初回の介護計画は、家族、利用者の意向やアセスメントシートからの情報をもとに計画作成者が作成し、職員に意見を聞いています。毎月モニタリングを行いカンファレンスで職員の意見を聞き3ヶ月毎に介護計画を見直しています。サービス担当者会議は管理者や職員が参加し、医師や看護師等の意見も反映させ見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルにより生活状況、心身状況を詳しく記入している。スタッフ間で共有することで計画の見直し等に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に出来る限り柔軟な支援やサービスが提供出来る様取り組んでいる		

ニチイケアセンターおとし(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催のいきいきサロンに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の受診が定期的に受けられ本人、家族の希望通りの医療を受けて頂いている	入居時に今までのかかりつけ医を継続出来る事を説明し、ホームの協力医の往診体制などについても説明して決めてもらっています。週1回の協力医による往診と看護師が週2回健康管理に訪れています。協力医と24時間連絡がとれる体制を築くとともに、看護師との連携も図られています。必要な方は歯科の往診や希望により訪問マッサージを利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携をはかり、報告・連絡・相談が出来るようスタッフが共存しお客様に適切な受診が出来るよう努める		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態や状況を病院関係者と連携をはかり情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と話し合いをし協力しあいながらチームケアに取り組んでいる	入居時に重度化と看取りの指針についてホームで出来る事と出来ない事を説明しています。状況を見ながら医師が家族の意向を聞いています。看取りの経験もあり医師や看護師、職員等と連携して看取りのケアに取り組んでいます。職員は不安な事があれば医師に聞いたり、看護師に伝え会議等で報告し合い、情報を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法は掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに基づいて定期的に訓練の実施を行っている	消防署の協力が得られた避難訓練と自主訓練を年2回昼夜を想定して行っています。通報や初期消火、避難誘導等の訓練を行い、消防隊員よりアドバイスを貰っています。運営推進会議の議題に挙げ案内や報告を行い参加を呼びかけています。訓練には近所のボランティアの方が参加しています。	

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア中はプライバシー保護に十分気をつけている。又、信頼関係のもと気分を損ねない声掛け対応を心掛けている	研修や日々のケアの中で、管理者は一人ひとりを尊重しプライバシーを守り、常に優しさを持って接するように話しています。語尾や声のトーンに気をつけた対応を心がけ、トイレ誘導時はさりげなく声をかけています。不適切な対応や言葉遣いがあれば、リーダーや管理者に伝え注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフからの決定ではなく可能な中で選択して頂ける工夫を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルはあるが出来る限りお客様の声を聞き 希望にスムーズに対応出来る様心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で出来ない方に関してその人合った色の選択等行いその人らしい身なりを心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	参加できる方は一緒に準備を行っている。又、一人ひとりが負担にならない食事形態にて提供している	職員が1週間分の献立を決め、毎日利用者と同じ物に行っています。利用者自らが積極的に下準備や食事作りと片付けまで行い、利用者同士が相談しながら力を発揮されています。旬の物を提供し、収穫した野菜の使用が利用者の楽しみになっています。おやつと一緒に作ったり、誕生日には出前を取るなど、その方がつぶやいた声からも食べたい物を把握して提供し食事が楽しめる支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量の提供。また、水分摂取は難しい方に関しては		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行える方は声掛け、困難な方にはスタッフからのケアを行い清潔保持に努めている		

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録の中から一人ひとりのパターンを考えてトイレ誘導及び声掛けを行っている	個々の排泄の記録からパターンを把握してトイレへの声かけ、誘導を行っています。ミーティングで紙オムツの使用を減らす検討をする中で、利用者の様子や状態に合わせた対応を心がけた事で布の下着に変更できた方や、紙オムツの使用の工夫でコスト減に繋がっており、出来るだけトイレで排泄が出来る支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維のある食材を取り入れたり腸に働きかける食材、十分な水分量の提供を心掛けている。一日の中で体を動かす時間を確保し体操や歩行の実践に努める		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や状態、個々の希望に添って声掛けを行い入浴を支援する。また入浴剤を入れるなどして気分転換を図っている	週2～3回を目途にして日中の時間帯に入浴の支援をしています。毎日入っている方もおられ、希望者はありませんが、夜間の希望があれば検討したいと考えています。菖蒲や柚子、入浴剤の好みを聞く等季節湯や温泉気分を楽しんでもらっています。拒否される時は声かけのタイミングや様子を見て気持ち良く入浴が出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の体調や状況に応じて日中にも臥床の時間を取るなどの工夫をする。居室の温度を体感し必要に応じて窓の開閉、空調等にて調節している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬によってお客様にどのような作用をもたらすか 日々観察し都度スタッフ間、医療機関と情報を交換。本人に合った薬を提供する為に協力している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を過ごす中でその方に合った役割また希望に添った役割を施工出来る様に支援している。 (調理の見守りや洗濯物をたたみやすい状態まで行っておくetc.)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出出来る様に時間を作り外出先では地域の方々とお話する。動物と触れ合う 季節を感じられるようなものを見る等ホームで過ごす日々が単調なものにならないように心掛けている	毎日の食材の買い物と夕方の散歩を日課としています。いつでも自由に玄関先へ出て気分転換をしたり、利用者の希望で買い物へ行かれる時は、職員も買い物の頼みごとをする等買い物が楽しめるように工夫をしたり、これまでの生活の習慣を活かした外出の支援をしています。家族にも参加を呼びかけ年1回遠方に出かけています。	

ニチイケアセンターおおとり(えんじえる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム金庫内での管理 必要な時は使える様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時は自ら電話をして頂く		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出る工夫(提示物)をしている	窓からの採光も明るく、自然の風の利用や空気洗浄器も設置し、掃除の行き届いた清潔なリビングで快適に過ごせるよう配慮がされています。利用者とする壁飾りや夏祭りの提灯を飾る等、季節感を味わって貰える工夫がされています。また、玄関先の花や水槽のメダカ、観葉植物等と自由に入出りできる開放的な空間となっており、居心地良く家庭的な雰囲気を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士が会話出来る様に席替えをする		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身のなじんだ物、好みの物の使用	入居時に使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうように伝えています。畳やベット、筆筒、ソファ、ミニ三面鏡、仏壇等を持ち込み、これまでの生活習慣を活かした配置や状況の変化にも対応した配置換えを行なう等、安心して暮らせるよう工夫しています。時計やテレビ、活躍していた当時の表彰状を飾る等、その人らしく穏やかに暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り声掛けなどで工夫している		